

第19回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成26年1月31日（金） 13：00－14：30

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

亀岡内閣府大臣政務官、西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官

4. 議事要旨

冒頭、亀岡政務官から以下のような挨拶があった。

亀岡政務官：

- ・ 厳しい財政事情のなかで、宇宙関連予算はしっかり措置いただいた。これも宇宙政策委員会の熱心な議論のたまものであると感謝している。
- ・ 宇宙基本計画の2年目の今年も、本質的な宇宙政策、宇宙予算の在り方について議論をし、提言をしてほしい。

(1) 平成25年度補正及び平成26年度の宇宙関係予算案について（報告）

平成25年度補正及び平成26年度の宇宙関係予算案について、資料1、参考資料1、参考資料2に基づいて、事務局より報告を行った。

(2) 宇宙輸送システム部会からの報告

宇宙輸送システム部会からの報告について、資料2及び資料2別添に基づいて山川部会長より報告を行った。主な意見は以下のとおり。

○新型基幹ロケットの開発、定常的な運用と並行して、将来輸送系の検討を進めなければならない。

○将来輸送系についてはいくつかの技術パスについて、民間やJAXAで研究が行われている。これらの取り組みを将来的には取りまとめていくことが重要である。

(3) 調査分析部会からの報告

調査分析部会からの報告について、資料3及び資料3別添に基づいて中須賀部会長より報告を行った。主な意見は以下のとおり。

○宇宙政策の調査分析機能の在り方は重要であり検討を進めていきたい。

(4) 国際宇宙探査フォーラム（I S E F）の結果報告

国際宇宙探査フォーラム（I S E F）の結果報告について、資料4に基づいて文部科学省より報告を行った。主な意見は以下のとおり。

- I S E Fの結果等を踏まえ、我が国としての有人探査の在り方について、宇宙政策委員会でしっかり議論を深めていく必要がある。
- I S Sへの参加の在り方については、2020年までと2024年までを分けて考える必要がある。HTVの製造に係る期間や次回 I S E Fの開催時期等も勘案しながら、早期に議論を得るように議論を進めなければならない。

(5) 今後の宇宙政策委員会の進め方について

今後の宇宙政策委員会の進め方について、資料5に基づいて事務局より説明があった。資料5「今後の宇宙政策委員会の進め方について（案）」については、委員会として了承された。

以上